

理学療法士学科（昼間３年制／夜間４年制）

養成目的

リハビリテーション医療は、「命の尊厳」を守り、「ノーマライゼーション精神」のもと、「全人間的復権」を目指して発展してきた。その中心的存在として理学療法士は、「身体に障がいのある者」に対し基本的動作能力の回復や心身の機能の維持向上を図るために理学療法を行ってきた。近年の医療の進展に伴い医療の機能分化が進み、理学療法士に対して多様な障がいあるいは重複した障がいに取り組むチーム医療の一員として、適切かつ円滑に業務を行うことを期待されている。急性期では、心臓・呼吸などの臓器の病態理解により高度医療における早期リハビリテーションに対応できることが求められる。回復期では、自宅復帰に向けた日常生活活動機能の改善及び自立指導ができることが求められる。維持期では、廃用症候群の予防・転倒予防・誤嚥性肺炎の予防などを目的に家族指導・栄養指導ができることが求められる。また新しい分野として、介護予防事業・健康増進事業の参入、起業家の育成などがあり、それらに対応できる人材が今後求められるであろう。

本学科では、以上のような業界が求める人材の育成をコンセプトとし、実学教育・人間教育・国際教育の教育理念に基づき、理学療法士としての基本的素養を徹底的に育むことを目的とする。

学年(学期) 目標

学年	到達目標
昼間部 1 年前期 夜間部 1 年後期	知識：骨・関節・筋の解剖学を修得する。 態度：理学療法士学生の規範を学び、心構え・マナーを実践できる。 技能：「面接 O S C E（客観的臨床能力試験）」を通して模擬患者とのコミュニケーションがとれる。
昼間部 1 年後期 夜間部 2 年後期	知識：医療専門職としての基本である解剖生理学を体系的に修得する。 態度：「見学実習」で、患者接遇と理学療法業務を体験し、理学療法士学生としての自覚をもつ。 技能：「見学実習」で問診による情報収集・バイタルサインの測定ができる。
昼間部 2 年前期 夜間部 3 年前期	知識：解剖・生理・運動学の国家試験過去問題が 6 割解ける。 態度：クラスメートや後輩へ気配りや協力・指導ができる。 技能：基本的な理学療法検査を模擬患者に実施できる。
昼間部 2 年後期 夜間部 3 年後期	知識：評価学・臨床医学の国家試験過去問題が 6 割解ける。 態度：実習先の職場のルールを遵守でき、実習指導者や関係職種と良好な関係を築ける。 技能：実際の現場で実習指導者の指導のもと検査・測定を実施できる。
昼間部 3 年前期 夜間部 4 年前期	知識：理学療法治療学に関する国家試験過去問題が 6 割解ける。 態度：理学療法士の役割と責任を理解し理学療法士としての自覚をもった行動がとれる。 技能：理学療法の対象者に対して実習指導者の監督のもと基本的理学療法を実践できる。
昼間部 3 年後期 夜間部 4 年後期	知識：理学療法士国家試験に合格できる知識を修得する。 態度：理学療法士としての倫理観や生涯学習の態度を身につけることができる。 技能：理学療法分野における研究とその発表ができる。

取得目標資格

理学療法士（国家資格）（卒業時に受験資格取得）

就職分野

特定機能病院、地域医療支援病院、一般病院、リハビリテーション病院、医療療養型病院、専門病院、整形外科医院（スポーツ専門）、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、訪問看護ステーション、行政機関、身体障がい者更生援護施設、医療関連企業

職 種

理学療法士